

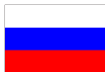
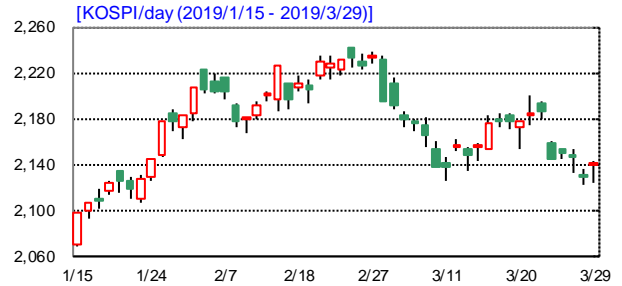


【韓国】 総合指数は週間で2.1%安と3週ぶり反落、今週は経済指標に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.1%安と3週ぶりに反落。世界経済減速への警戒が高まる中で売りが先行した。週明け3月25日は前週末の米株急落の流れを受けて前営業日比1.9%安。翌26日に反発したものの、韓国経済の減速懸念や米株市場で半導体株が大きく下げたことが嫌気される中、27-28日は再び売りが優勢となった。特に28日は終値ベースで1月下旬以来、約2カ月ぶりの安値をつけた。ただ、29日は反発。米中通商協議が進展するとの期待で主力株に買いが入った。今週は国内の主要経済指標が相次いで発表される中で神経質な値動きとなるか。1日に3月の貿易統計と製造業PMI、2日に物価統計、3日に外貨準備高が発表される。米中通商問題を巡っては前週に続き、閣僚級協議が3-4日に米国で開催される予定。

▼指数チャート

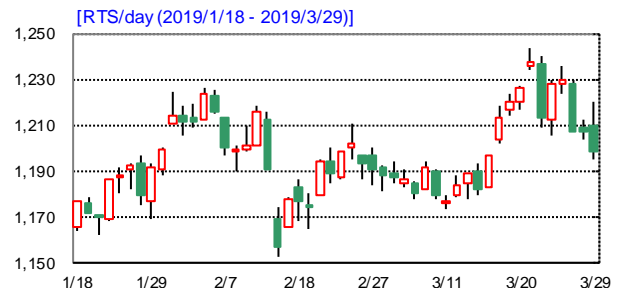


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.3%安と3週ぶり反落、今週は上値の重い展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.3%安と3週ぶりに反落。米長短金利の逆転による警戒感が投資家心理を冷やしたほか、米国が新たな対ロシア経済制裁の可能性を示し、為替相場でルーブルが急落したことも売り材料となった。週初は米国による追加制裁懸念が後退し、銀行株などを中心に資金が流入。原油価格の上昇も買いを後押しした。ただ、その後は米長短金利の逆転で先行きの景気後退の可能性が意識されて投資家心理が悪化した。29日には米国のベネズエラ担当特使がロシア軍のベネズエラ駐留対応で想定される方策に経済制裁が含まれるとの認識を示した影響でルーブルが対ドルで急落。指数は終値で1198.11ドルと2週間ぶりの安値に沈んだ。今週は米国による対ロ追加経済制裁の動向をにらみ、上値の重い展開か。

▼指数チャート



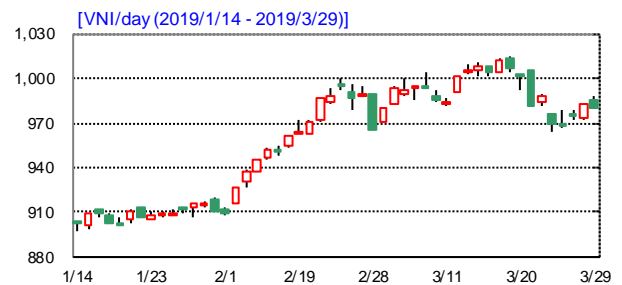
【ベトナム】 ベトナム指数は0.8%安と続落、今週は米中貿易協議の進展期待で堅

調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.8%安と続落。米長短金利の逆転を受けて米景気後退の懸念が高まり、ベトナムなどの新興国の株式市場が総じて軟調な値動きとなった。VN 指数は週明け25日に前営業日比1.9%安と大幅安でスタート。26日も公益事業株や不動産株などが売られ、指数は終値で969.79ポイントと約1カ月ぶりの安値を更新した。その後は一部大型の銀行株や不動産株がテクニカルな反発をみせたほか、米中貿易協議の進展期待を受けて下げ幅を縮める展開となったが、週初の下落幅を埋めるには至らず、週間ベースでは下落した。個別銘柄では不動産のビンググループ(2.3%安)、ペトロベトナムガス(1.7%安)などの時価総額上位銘柄の下落が指数の重しとなった。今週は米中貿易協議の進展に対する期待で堅調な展開か。

▼指数チャート

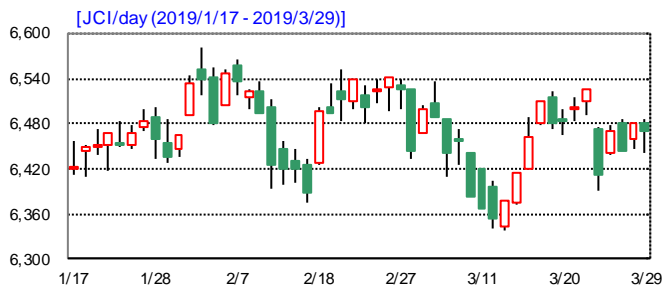


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.9%安、今週は 3 月の CPI に対する市場の反応に注目

ジャカルタ総合指数は週間で 0.9%安と 3 週ぶりに反落。3 月月間では 0.4%高。先週は週初に大きく反落すると、その後は週末まで一進一退の値動きが続いた。25 日は米国経済の減速に対する警戒感の広がりや嫌気され、指数は前営業日比 1.7%安と 4 日ぶりに反落。26 日は前週末に急落した NY ダウが 25 日に小幅ながら反発した流れを引き継ぎ、買い戻された。28 日は北京で始まった米中貿易摩擦を巡る閣僚級協議への期待感が買い材料となった。今週は 1 日発表の 3 月の CPI に対する市場の反応が焦点。前週末の NY ダウの続伸は株式相場の追い風になりそうだ。3 日はムハンマド昇天祭のため休場。

▼指数チャート

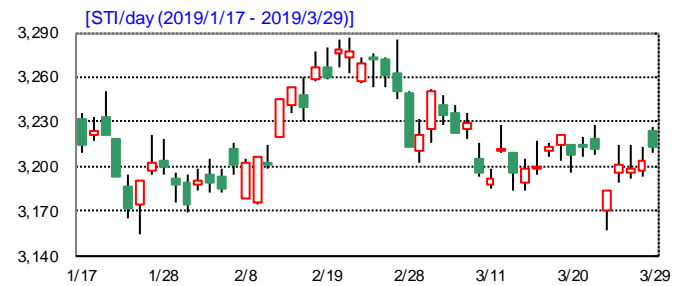


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.02%高、今週は 3 月の製造業 PMI が焦点

スレーツタイムズ指数は週間で 0.02%高とほぼ横ばい。3 月月間では 0.01%高。先週は週後半の上昇が指数を支えた。25 日はリスク回避の目的で世界的に資金が債券市場に流出し、指数は続落。一方、26 日は米国経済の減速懸念がやや後退したことが好感されて反発した。その後は 28 日まで小幅な値動きが続いたが、29 日は前日から開催中の米中貿易協議に対する楽観的な見方が好感され、続伸して引けた。今週は 3 日の取引終了後に 3 月の製造業 PMI が発表される予定で、前月まで 6 カ月連続で低下した指数が上昇に転じれば好材料。外部要因では 3 日からワシントンで再開される米中協議の行方が注目される。

▼指数チャート

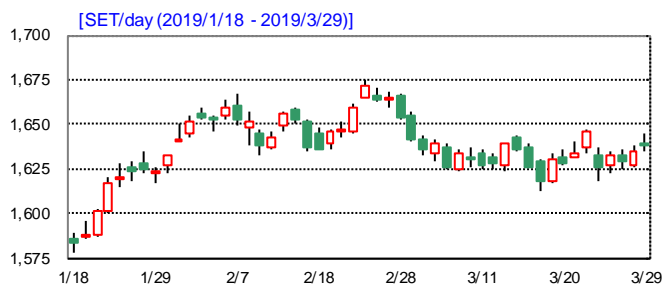


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.5%安、総選挙の開票結果待ちで週初に下落

SET 指数は週間で 0.5%安と反落。3 月月間では 0.9%安。先週は週初の下落が痛手だった。25 日は前日に投票が行われた総選挙の開票結果待ちの様子見で売り優勢の展開となり、指数は前営業日比 1.2%安と 3 営業日ぶりに反落。一方、26 日は 2 月の鉱工業生産が前年同月比 1.6%減と市場予想の 0.5%増から下振れたが、影響は軽微で反発した。また、27 日は反落したが、28 日は選挙管理委員会が政党別得票数の暫定結果を発表した効果で安心感が広がり、買い戻された。小選挙区と比例代表の議席獲得数を合わせた公式結果は 5 月 9 日までに発表される予定。今週は 1 日発表の 3 月の CPI に対する市場の反応が焦点。

▼指数チャート

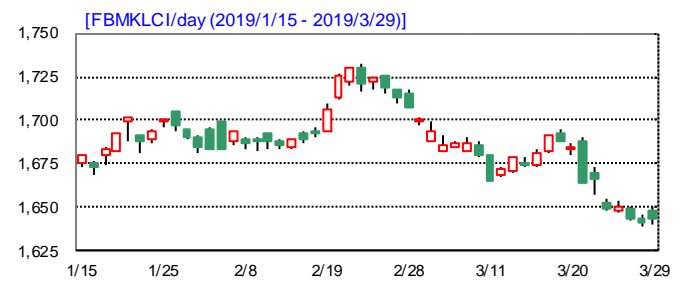


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.4%安、中央銀行が GDP 成長率予想を引き下げ

クアラルンプール総合指数は週間で 1.4%安と続落。3 月月間では 3.8%安。先週は国内の重要イベントが少ない中、1 週間を通じてさえない値動きが続いた。25 日は世界的な株安に連動し、前営業日比 1.1%安と反落してスタート。その後も買い材料に乏しく、特に 28 日は前日に中央銀行が今年の GDP 成長率予想をこれまでの 4.9%から 4.3-4.8%に引き下げたことが嫌気され、指数は終値ベースで約 3 カ月ぶりの安値を更新した。ただ、29 日は 1-3 月期末のお化粧品買いで小幅に反発して引けている。今週は 4 日に 2 月の貿易統計が発表される予定で、内容が市場予想を上回れば株式相場の支援材料になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。